

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市なのはなホーム
2	指定管理者	社会福祉法人 なのはな会
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで（5年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成30年度 5,324人（前年度比 105%） ・平成29年度 5,091人（前年度比 97%） ・平成28年度 5,230人（前年度比 100%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 57,751千円（66,953千円） ・その他市が負担した費用 3,276千円（2,710千円） （ ）は前年度決算額
		《収入》 ・使用料収入 62,181千円（55,607千円） ・その他収入 0千円（0千円）
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成31年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施した。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営に当たっている。 利用者個々の発達に寄り添った支援を行うため、障害特性を理解し、それぞれに適した療育を行っている。	42/42
II	施設の運営管理体制	施設の運営管理については、事業計画に基づいた運営がなされている。 経理書類の作成及び通帳印鑑の管理についても適正に行われている。	24/24
III	施設・設備の維持管理	施設、設備は適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 環境への配慮としては、施設全体で積極的な取り組みを進めている。	24/24
IV	サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、職員会議・研修等により人材育成を図るとともに情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 利用者が利用しやすい環境を整えるため、相談に適切に対応できる体制を整えている。	27/27
V	施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、課題と取組み・振り返り評価を行い利用者個々の発達に寄り添った支援を行っている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》	
<p>【発達支援】在籍児は1歳から6歳までの年齢層が幅広く、医療的ケア児から障がいと診断されない子どもまで様々な子どもが在籍した。早期療育の場として低年齢児には家庭と連携して生活リズムを整えることで、生活が変わり親子関係を安定させることができた。医療的ケア児に対しては関係機関と連携しながら体調を整え通園することで、子どもらしい生活をつくることの大切さを確認することができた。就学前の年長児には余暇支援として15時半までの『なのはな広場』やお泊まり保育を経験することにより年長児としての自信をつけ就学へ繋ぐことができた。</p> <p>【家族支援】日頃より子どもの様子、変化を保護者に伝え、年2回個別支援計画を面談で共有して取り組みを進めてきた。また園の行事においては、子どもの発達を共有する場として、多くの家族に参加していただき、子どもの変容が最大の家族支援になることを感じる事ができた。それぞれの家族の状況は違いますが、必要に応じて面談や預かり保育などを入れて、家族生活の安定のための支援をおこなってきた。</p> <p>【地域支援】地域からの相談は卒園児を中心に行ってきた。地域支援員の認知度はまだ低いですが、他機関との連絡会や交流に参加することで関係づくりを進めてきた。</p> <p>【人材育成】事業所内や法人内で定期的に研修を行っており、また外部研修にも積極的に参加し人材育成につとめている。外部研修については参加者が報告を行い、職員全体で共有して支援へ生かしている。</p>	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 従来より行っている毎日通園、分離保育など、療育内容の充実を図っている。地域支援の一環として、卒園児の保護者からの相談を受けたりするなど、地域相談体制の強化を実施した。 また、母親研修の実施など、児童だけではなく家族を含めての利用者処遇の向上に努めている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課